１－１　中央銀行の誕生と進化

世界最古の中央銀行は1668年スウェーデンから。現代のような中銀は、19世紀以降に設立され始めた。

中央銀行の定義は国により様々かつ曖昧で、現在の中央銀行の定義は、①銀行券の発行②最後の貸し手③政府の銀行。①②は19世紀後半から一部の銀行が、③は19世紀後半から一部の銀行が機能をもつようになった。設立時の目的は、

（英）まず、政府財政のファイナンスとしての役割、その後、①＆②の役割をもつようになった。

（日）戦争での不換紙幣（金などと交換できない紙幣）を整理し効率的な金融市場を作るために設立。

（米）通貨の弾力的供給のために設立。←銀行間での決済・季節的な資金需要（＝②？）

中央銀行設立の主目的

通貨の供給。決済システムの運営。金融・銀行システムの安定化

→金融政策や物価安定のためではなかった。経済の持続的な発展へ貢献のため。

１－２　中央銀行通貨と民間銀行通貨

中央銀行の主役割　通貨の供給。←①決済手段②計算単位③価値の保存手段

①の役割を果たすためには“安心感”が必要。

中央銀行通貨＝銀行券(現金)＋中央銀行当座預金(中央銀行の口座)　　　　　*？銀行券と貨幣の違いは？*

中央銀行口座の金利は民間銀行より一般に低い。現金は小口決済、口座は大口決済に使われ、中央銀行は(基本的に)潰れないから安全な決済手段として使われる。また、支払い完了性をもつ。（ある民間銀行を介して決済する場合は、取引相手に渡った時点で決済終了とするが、中央銀行の場合は中央銀行の口座で決済した時点でDone扱い。）

（民間銀行通貨・・・民間銀行が発行する通貨。信用リスクあり。広義の通貨でしかない。）

マネーサプライ

定義=中央銀行・民間銀行以外がもつ通貨。（国によって通貨の範囲、通貨保有主体の範囲が異なる。）

定義（日本） マネーサプライ＝M2+CD *但し、*M2=M1*(=現金+預金)*+準通貨*(=定期預金)* , CD=譲渡性預金

１－３　中央銀行のバランスシート

中央銀行口座をもつのは、金融機関のみで、金融機関同士の決済に使用される。

公開市場操作(オペレーション)＝中銀が民間銀行等に資産の売買をして、通貨の供給を調節すること（民間銀行への与信）

オペは2種類あり、一時オペ＝有担保での資金を供給、永続オペ＝長期国債の売買。

「中銀はバランスシートの大きさ・構成を変えて、政策を実践する。」　⇔政策を行うと、必ずバランスシートに影響を及ぼす。

１－４　中央銀行の活動と金融政策

1. 決済サービスの提供。（多額が日々決済されている）→安全・効率的な決済方法の提供。
2. 最後の貸し手。流動性の提供、システミック・リスクの防止（金融仲介機能の崩壊を防ぐ）
3. 物価安定（のための金融政策の運営）　・・・供給量の増減による金利のコントロール
4. 金融機関への規制・監督
5. 政府の銀行

→まとめると、①金融システムの安定化・効率化　②物価の安定

現代では①はすでに発達しているので、今後②にフォーカスして議論。

金利調整・流動性供給・資源の配分調整をすることで　→→→　経済の持続的な成長へ